

同意書

外来用 MRI

検査名 造影 MRI 検査

検査予定日 _____

私は、上記検査における**造影剤使用**の説明書（別紙）を読み
医師（ _____ 、医師 _____ ）に質問する機会を与えられ、了承しましたので、検査に際し、必要に応じて造影剤の投与を受けることに同意します。

獨協医科大学日光医療センター 病院長殿

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

患者氏名 _____

保護者または

代理人氏名 _____

（注）保護者又は代理人欄は、本人が未成年者または署名ができない場合などにご記入ください。

造影検査問診表

太枠内にご記入ください。

患者氏名 _____ 様（ _____ 歳 _____ 月 _____ 日 ）(カルテ No: _____)
体重 _____ kg 身長 _____ cm

この問診表は検査をできるだけ安全確実に行うためのものです。

検査担当医師の判断で造影剤を使わない場合もありますのでご了承ください。

1. 今までに造影剤（注射）を用いた検査を受けたことがありますか？

なし あり CT・MR・血管造影・腎臓検査・胆嚢検査
その他（ _____ ）

その時、副作用はありましたか？

なし あり 発疹・吐き気
その他（ _____ ）

2. アレルギー体質、アレルギー性の病気がありますか？

なし あり かぶれ・じんま疹・ぜんそく
アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎
のみ薬・注射の副作用
その他（ _____ ）

3. 何か、持病はありますか？あればご記入ください。

4. 過去に手術を受けたことはありますか？

手術歴（ _____ 年頃 部位 _____ ）

5. 透析を行っている方はMRIの造影検査が出来ません。

MRI 造影検査についての説明書

今回の MRI 検査では、「MRI 用造影剤」という検査薬を注射しながら撮影を行う予定です。しかし、まれに造影剤の注射で副作用が生じることがあります。

造影剤を使うか使わないかを決めるのは、患者さんの自由です。ただし、造影剤を使わなかった場合は、使った場合に比べて、病気の発見ができなかったり、治療が遅れたりする可能性があります。

以下の項目をお読みになった後に、わからない点を主治医に質問してください。説明に納得されましたら、同意書に署名をお願いいたします。

【造影剤とは何か？】

MRI 用造影剤は、異なる臓器・組織を異なる色調となるようにする働きがあり、病変を見やすくする薬です。通常、腕の静脈から注射します。注射液の内容は、ガドリニウムという特殊な物質で作られた薬が主で、体内にとどまらず腎臓から尿とともに排泄されます。

【造影剤を使う利点】

臓器の中を血液が流れている様子や、病気の部分の特徴がわかり、MRI 画像を見て診断する上で重要な情報になります。正常部と病変部の色の差がつき、小さな病変や、正常と紛らわしい病変でも見つけることができます。

【造影剤の副作用】

副作用の頻度は、軽微なものを含めて約 1~2%といわれています。ほとんどは、吐き気・嘔吐、熱感、皮膚の異常(赤くなる、かゆみができる、むくみ、じんま疹)、くしゃみ、せき、倦怠感、めまいなどの軽いもので、しばらく安静にしていると回復します。しかし、まれに(1万人にひとり程度)、冷や汗、血圧低下、胸が苦しくなる、呼吸困難などの重い副作用が起こることがあります。他に、注射部位が腫れたり、炎症を起こすことがあります。以前に造影剤を使った際に副作用が出ていなくても、今回の造影剤検査で副作用が出ないとは限りません。また、極めてまれですが、死に至る報告もあります。しかし、当院では副作用や予期せぬ事態に対して適切な対応を致しますのでご安心ください。

【造影剤で副作用が生じる危険が高い状態】

造影剤により副作用が生じるかどうかを正確に予知することはできません。しかし、MRI 用ガドリニウム造影剤の場合、アレルギー体質や気管支喘息の方は、副作用を生じる可能性がその他の方よりも約 2 倍高いといわれています。また、以前に造影剤で具合が悪くなったことがある方も、副作用が生じる可能性が高いといわれています。重度の腎臓病のある方では、造影剤の排泄が遅れるために、重篤な副作用(腎性全身性線維症)が生じる可能性があります。このような点から、下記の事項に該当する方は、必ず主治医にお申し出下さい。

- ①これまでに造影剤を使った検査で具合が悪くなったことがある。
- ②気管支喘息やアレルギー体質と診断されている。
- ③腎臓のはたらきが悪いと言われた、あるいは腎臓の病気があると言われている。
- ④妊娠している可能性がある。

【造影剤の使用を承諾したが、後から造影剤を使いたくなくなった場合】

患者さんは、いつでも(承諾した後も)造影剤の使用を拒否できます。ただし、その場合、造影剤を使わずにMRI検査をすることになり、冒頭で述べましたように検査を行っても病気がわからない可能性があります。造影剤を使うことによる利益と危険性は個々の患者さんで異なりますから、造影剤の使用について疑問を持たれた場合には検査前に主治医にご相談ください。また、検査当日になって体調変化などで造影検査を受けたくない場合は、MRI検査室の看護師にお伝えください。担当の放射線科医がお話をうかがいます。

【緊急時の対応】

放射線科には、常に医師と看護師がおりますので、万が一副作用を生じた場合には迅速な対応をします。また、予期せぬ事態に対しては、放射線科の担当医と主治医、または救急担当医が適切な対応をいたしますのでご安心ください。

【検査後に何か異常を感じたら】

検査終了後から数日の間に、何か異常を感じられたら、日光医療センター診療科までご連絡下さい。

連絡先

0288-76-1515(代表)

→造影剤を使ったMRI検査をしたこと、症状についてお話してください。

【終わりに】

患者さんの場合、造影剤使用による利益(たとえば、臓器の血流状態について重要な情報が得られること)が、副作用の可能性などの危険性を大きく上回っていると主治医が判断し、造影MRI検査を依頼しますが、造影MRI検査を受けるかどうかの決定権はあくまで患者さんご本人にあります。不明な点や心配なことがありましたら、いつでも主治医にご相談ください。

以上の説明に納得していただけたら、同意書にご署名をお願い致します。

連絡先 獨協医科大学日光医療センター _____ 科
電話 0288-76-1515 (代表)